

【声明】

ロシアはウクライナ侵略と核の威嚇をやめよ

2022年3月12日

特定非営利活動法人
ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
2021年度第3回理事会

私たちノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、プーチン大統領、ロシア政府、ロシア軍によるウクライナ侵略と核の威嚇に強く抗議し、すべての戦闘行為と非人道的行為の即時停止を求めます。

私たちは、広島・長崎に投下された原子爆弾によってもたらされた、人類史上未曾有の被害の反人間性と、被爆者の原爆とのたたかいを後世に伝え、「ふたたび被爆者をつくるな」という願いを継承するために、2011年にノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会を立ち上げ、今日まで活動を進めてきました。昨年1月22日に核兵器禁止条約が発効しましたが、ロシアのウクライナ侵略をめぐる事態は、条約発効にいたる被爆者と国際社会の長年の努力をふみにじるものです。

日本では、戦争や核の危機に乗じた一部の政治家が「核共有」や9条改憲を公言していますが、核「抑止」は幻想で、核の存在こそが核戦争の危機を招くことは、今回のウクライナ危機からも明白です。武力には武力で、核には核で対抗することは絶対に許されません。

かつて戦争を遂行し原爆の惨禍を招いた日本の果たすべき役割は、今こそ憲法第9条に基づく平和外交をすすめる、被爆者とともに「ノーモア・ウォー」「ノーモア・ヒバクシャ」の声を世界に広げることです。

私たちは、原爆に抗いながら生きてきた被爆者たちの「ふたたび被爆者をつくるな」の訴えこそ、核時代の終わりをめざすすべての人々が共有すべき未来へのメッセージと考えます。被爆者の訴えを受け継ぎ、核兵器と戦争をなくすことが、真の平和への道です。

私たちは改めて《ノーモア・ヒバクシャ》の声を世界に広げる発信力を強めたいと決意しています。

プーチン大統領がいますぐウクライナ侵略をやめることを求めます。